

要 望 書

下北半島縦貫道路の整備促進について

青 森 県 む つ 市
青 森 県 む つ 市 議 会

下北半島縦貫道路の整備促進について

当市の道路行政の推進につきましては、平素より特段の御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、これまで未着手区間であった「野辺地七戸道路」7.1キロメートル及び「奥内バイパス」11.0キロメートルについて、国から令和4年度の予算がそれぞれ配分され、新規事業化していただいたことにつきまして、重ねて感謝申し上げます。

【要旨】

東北縦貫自動車道八戸線に連結し、その機能を最大限発揮する高規格道路「下北半島縦貫道路」の早期供用を図り、地域・拠点の連携を確保しストック効果をより高めるため、既着手区間の整備促進を要望します。

【理由】

令和3年1月に策定した「第2期むつ市国土強靱化地域計画」において、「下北半島縦貫道路」は、災害発生時に広域的な避難路や救援物資の輸送路となるだけでなく、平時においても、広域交通拠点と連結し、地域間の連携の強化や緊急医療ネットワークの向上に必要な高規格道路と位置付けています。

下北半島縦貫道路は、平成7年度の整備着手の後、総延長約70キロメートルのうち26.6キロメートルが開通を開始しており、令和元年12月に一部供用を開始した「むつ南バイパス」を含む、既着手区間24.8キロメートルにおいても着実に事業の進捗が図られており、沿線自治体の雇用の増加や交通事故の減少など、さらなるストック効果の発現に向けて、開通区間の延伸が期待されます。

また、残る未着手区間であった「野辺地七戸道路」 7.1 キロメートル及び「奥内バイパス」 11.0 キロメートルについても、国から予算がそれぞれ配分され、今年度、事業着手したところでもあります。

今後整備が進み、「下北半島縦貫道路」が全線開通することにより、救急医療ネットワークの向上や優れた地域産品の流通拡大が図られるなど、高規格道路としての真価が発揮されるものであります。

令和3年8月には下北半島地域を集中豪雨が襲い、特にむつ市と風間浦村を結ぶ唯一の道路である国道279号に架かる小赤川橋が崩落し、一時800人以上の住民が孤立するなど、甚大な被害が発生し、この豪雨災害によって交通網の重要性を再認識しました。下北半島を災害に強く、安全で安心な地域とし、人口減少の克服、地方創生の実現、国土の強靱化を図るためには下北半島縦貫道路全線開通が必要不可欠です。

つきましては、『いのちの道』であり、下北半島地域の物流・人流を支える下北半島縦貫道路について、一日も早い全線開通に向けて、格別の御配慮を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年 月 日

むつ市長 宮下 宗一郎

むつ市議会議長 大瀧 次 男

地域高規格道路 下北半島縦貫道路 計画概要図

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)及び数値地図50mメッシュ(標高)を使用した。(承認番号:平25情使、第817号)

